

「リウマチ手記」 広瀬 美恵子 64 歳

2013 年 4 月 11 日

1 松本医院にめぐり会えるまで

多くの方がそうであるように、私も松本医院にめぐり会えるまでには、三カ所のリウマチ専門医院に通院しました。

はじめてリウマチ検査を受けたのが平成 19 年 7 月でした。

その年の 4 月、右手中指と薬指のつけ根の間が、少し腫れているのが気になり、いつも治療を受けている整体の先生に診てもらい暫く通いましたが、よくならずそのうちに右足の小指も痛くなり不思議に思い、肝機能と甲状腺（橋本病）の定期検査を受けている内科の個人病院へ行きリウマチ検査をお願いしたのです。先生は、「左右対称に症状が出るのがリウマチなので片手なら違うと思う」とおっしゃってくださったのですが、気になるので検査をお願いし、一週間後に結果を聞きに行くと「抗 C C P 抗体が 35.8 と高いので専門病院へ行くように」と説明され紹介状と病院の予約をとっていただき帰って来ました。

後日、紹介された総合病院の内科で受診し、問診、レントゲン、MR I の検査を受けたのですが、途中お盆休みも入り検査結果を聞いたのは、1 ヶ月後の 8 月末でした。

その結果は「骨の病気も考えられるがリウマチの確率が高いので薬を飲みながら様子を見ましょう」ということでアザルフィジン E N 錠をもらってきました。しかし、薬の副作用に不安を感じていたし、「早期なのですぐ治る」ぐらいにしか考えていなかったもので、病院からいただいた薬も飲まずに生活していました。そのせいもあったのでしょうか、急激に痛む箇所が増え右手だけではなく左手中指第二関節が紫色になり、皰も分からないほどにポンポンに腫れ上がり、背骨の骨の一個一個までもが痛みだし不安が増してきました。このままでいいのだろうかと思う不安な気持ちで 10 月には日本リウマチ学会指導医の個人病院に変更しました。

リウマチに力を入れている整形外科の先生ですので MR I の検査器具もあり血液検査も少し待つとすぐに結果が判るリウマチのクリニックでした。その時の血液検査結果は、CRP 測定値 0.2、RF（定量）13.6、抗 GAL 欠損 IgG 抗体 14.5、抗 CCR 抗体 28.9、MMP-3 50.3 でした。

薬は、メトレート錠（2mg 週1日、朝晩2回）フォリアミン錠、メドロール錠（2mg）を貰って来ましたが、薬の副作用の説明書をみると疑問を感じたので、また、服用しないで生活していました。

年が明け、平成20年1月頃から痛みがますます強くなり、手首も腫れ右足中指も変形が始まり「薬に頼らなければいけないのかなあ」と思うようになりました。ステロイドは、知人の助言もあり飲まず、メトレート錠とフォリアミン錠を飲み始めましたが、2ヶ月もすると肝機能（ALP、γ-GTP）の数値が上がり、メトレート錠が飲めなくなりました。

それから肝機能の数値が下がるまで免疫抑制剤が中止になりステロイド剤のメドロール錠のみ貰ってきていましたが、これも飲まずにいました。肝機能の数値が正常値に近くなったら、また、同じメトレート錠が出たので先生に「同じ薬でも大丈夫なのですか、肝機能の数値は上がることはないのでしょうか」と尋ねると先生は、「二度も数値は上がらないよ。そんな人、診たこと無いから同じ薬でも大丈夫」と言われました。

でも数回飲むとまた、数値が上がり薬は飲めなくなり、平成21年12月までの2年間で免疫抑制剤はメトレート錠、リマチル錠、モーバー錠と変わりましたが、その都度、肝機能の数値は上がり正常値に戻るまでの期間が2ヶ月だったのが6ヶ月もの月日がかかるようになってしまいました。

免疫抑制剤は出なくてもメドロール錠プレドニゾロン錠は、ずっと貰っていましたが、自分勝手な判断で飲まないでいました。肝機能の数値が上がるたびにウルソ錠をもらい飲んでいました。

ただ、平成21年の春頃から肩が痛くなり、腕を動かすこともできなくなる等、普通に生活することが困難になってきたので、肩の痛みを先生にお話すると「リウマチだから…注射すると楽になるから」と肩に注射をされました。

「何の注射ですか」と尋ねると、記憶は曖昧ですが先生は「9割がヒアルロン酸（又はコンドロイチン）だから」と言われ安心しましたが、今考えると残りの1割に何が入っているのか疑問に思わなかったし、考えなかったのが残念でした。2～3回注射して貰いましたが2～3日経つとまた痛くなるので、原因がなんなのかを知りたくて、他の整形外科、ペイクリニック等の病院の診察も受けてみました。

いずれの病院も診断結果は「五十肩」・「リウマチと五十肩」・「リウマチだから…仕方ない」と3人の先生がすべてバラバラでした。

ペインクリニックでの肩の注射は即効性があり、注射するとその場で痛かった腕が上がるようになり、驚きを感じると共に恐ろしくなり一度で通院を中止。全部の病院で受けた肩・手首・指に打った注射は、7～8本になったと思います。この頃からCRPの数値が0.1～0.2だったのが7月0.68、8月1.11と上がり痛みも増してきたので、10月には「これくらいの数値ならまだ軽い方だけど、2週間だけステロイドの量を増やして数値を下げましょう」との先生のすすめもあり、今まで飲んでいなかったステロイドを1週目は朝晩1回（4mg）2週目は朝晩（2mg）を服用するようにと貰いました。

肩が痛く生活に支障が出ているので「一時的なら…大丈夫か」と思い初めて飲む決心をしたのですが、不安もありましたので指示された量の半分の量だけを飲み始めました。

すると10月に0.86あったCRPの数値が0.3まで下がりました。ステロイドの効果は驚きでしたが飲むのを止めた11月の検査では、元に戻り0.8に上がり、結局ステロイドは飲んでいる間だけ症状を抑えてくれている事が、体験でよくわかりました。

元々薬に疑問を持ちながらの通院でしたので、こんな事の繰り返しでは、絶対に良くなれないと思い、また、新年度の平成22年から薬もプログラムに変える話もありましたので、再び、病院を変える決心をしました。

平成22年1月、札幌の予約制のクリニックに通院しました。ここのクリニックでは、生物学的製剤のアクテムラを投与する事を勧められましたが、院内の待合室掲示板に「リウマチは一生のお付き合いです」との張り紙が貼ってあり、良くなりたい一心で取り組んでいた私には、「どこの病院も結局同じなのだ」と思い知らされがっかりしました。

そんな迷いの中で、平成19年まで通っていた整体の先生から、松本医院の存在と松本先生の理論をネットからコピーして届けてくれ、更に旭川の方で通院されている方もいらっしやるとの事をお聞きしたのです。

早速、理論を読ませていただき、通院されている方に電話でお話を伺い、「やはり良くなる治療法がある」と嬉しく思いました。是非、松本先生にお会いし治療していただきたいと思い、幾度も幾度も先生の理論を読み返しました。

頭の悪い私には理解できない部分もあり、記憶できない事もありましたが、「絶対治る」と確信が沸き、私には松本先生の治療しかないと思うようになりました。

2 松本医院（先生）と出会えて

平成 22 年 3 月 12 日主人と 2 人で松本医院を訪れました。
前日京都に宿をとり、朝早く起き、京都から高槻に向かいました。
予定より早く着いたのですが、私達より早く来ていた男性の患者さんが、
玄関の前で待っていたので、その方とおしゃべりしながら、玄関が開くのを
待っていました。
名前を呼ばれ診察室に入ると松本先生がいらっしゃいました。
待っている患者さんがいるにもかかわらず、1 時間近くもお話をして下さり
(途中何本かの電話も入りましたが…)「治らない病気は無い、治るでえ」とお
っしゃって下さった言葉が衝撃的で嬉しくて、心強く思ったことが、今でも忘
れる事ができなく「先生に出会えて良かった」と思い、お世話になろうと決め
ました。また、看護師さん、鍼灸の先生も穏やかで優しい気持ちが伝わってく
る方々で以前から知り合いだったような親しみを感しました。
これから松本医院にお世話になりながら、京都観光を楽しみリウマチが治るな
んて夢のような出来事と思いながら、薬師寺をお参りし京都市内を観光し北海
道に戻って来ました。

1 ヶ月後の 4 月の末に二度目の診察に行きましたが、3 月の血液検査の結果
よりも数値が上がっていました。でも、痛みが増しているわけでもなく、気持
ちが楽になっていたのも、結果に対する不安もなく希望を持って生活ができて
いました。それから年 2 回、4 月と 10 月に通院しながら京都を楽しんで 3 年
になります。今は、痛みも少なくなり、かゆみも入浴時以外は少なくなりました
が、この 3 年間のメモ帳を見ると、平成 22 年 6 月頃までは、「激痛で夜中目が
覚める」・「腫れて痛い」・「こわばりが強い」等々痛いことばかり書いてあり
ました。

平成 22 年 7 月頃になると「のどの奥が痒い」・「手の甲が痒い」・「足の踵が痒
い」と痛みよりも痒かったことが多く書いてあります。特に口の中で上あごの
奥の奥が痒く、手の届かなかった箇所だったので、大変辛かったことを今でも
思い出します。

平成 22 年秋から平成 23 年春には、咳、鼻水、涙目に加えて気管がつまって
いるような胸の違和感が続きました。胸の違和感の原因を松本先生にお尋ねす
ると「アトピーに変わっているんや、ちゃんと勉強しいやあ」なんて言われた
こともあり、慌てて理論を読み返した時もありました。

リバウンドもなく順調に良くなっていると思っていた平成 23 年 5 月末、突然睡眠中に肩に激痛が起こり、横になって眠ることもできず、1 週間ほど枕の上に布団を何枚も重ね、それに寄りかかって痛みに耐えながら眠れない日が続いた事が最大のリバウンドでした。この時は 37.5～37.8 度の熱が 3 日続きましたが、激痛は夜の 10 時頃から朝の 4 時頃までで、昼間は不思議と痛みが和らいだので家事は普通にできました。就寝前にお灸をしてもらい、夜中は 1 人でもできるイトウテルミー療法で肩を温め乗り切りました。その後は身体のあちこちが痒くなる日が続きました。

平成 24 年には鼻水、涙目は落ち着きましたが、背中の筋肉痛のような痛みが気になり、ベルクスロンを飲むことが多くなりました。なかなか痛みがよくなりず平成 24 年 12 月～平成 25 年 2 月上旬まで毎日飲み続け、お灸も今まで以上に回数を増やすと随分楽になりました。この時、お灸の大切さも学びました。

北海道と大阪は、遠いので何か困った時にすぐに松本医院に行く事ができませんでしたが、そんな時は、松本先生の理論を読み、また安江幸代さん、澤井史郎さんの手記を読ませていただき励まされ、勇気づけられました。お会いしたことのない方々ですが本当にありがたかったです。

平成 24 年 10 月 24 日の血液検査では、ヘルペス 93.3、IgE 167 ですが、CRP (0.05 以下)、RF 定量 (5)、IgG (1100)、MMP-3 (24.2)、抗核抗体 (40 未満) は正常値に戻りました。

血液検査の結果が少し良くなるたびに先生にお礼を申し上げると、先生はいつも「あなたの免疫ががんばったので、自分の免疫にお礼を言いなさい。僕はそのお手伝いを少ししただけや」とおっしゃって下さいます。私の知っているお医者様でこう言って下さる先生は初めてでした。

お医者さんに不信感を持っていたので凄く嬉しく思いました。

先生の理論どおり「IgG 抗体がクラススイッチして IgE 抗体になり、痛みがアトピーにかわりリウマチが良くなる」その通りに現在、進んでおります。

3 おわりに

リウマチになり松本先生をはじめ多くの方にめぐり会え、多くの事を学ばせていただきました。もし、病気にならなかつたら、いろんな事を教えて下さった方々にお会いできる事もなく、学ぶこともなく、人生を終わってしまったの

かと思うとリウマチになった事も悪くなかったと思っています。
病気に感謝、松本先生に感謝、テルミーをかけて下さった先生に感謝、手記を
書いて下さった方々にありがとうございます。そして私の周りの多くの方々
に感謝しお礼を申し上げます。

ヘルペスの数値が下がるには、少し時間がかかるようですが、下がる日を楽
しみに毎日、大事な治療のお灸をし、もうひと頑張りです。
今年は5月に病院に行きます。
もう少し松本先生をはじめスタッフの皆さんにお世話になりますが、
よろしく願い致します。